

<福井県山間部での雪の顕微鏡観察：平成28年2月4日～2月5日>

大野市和泉地区にある国民宿舎パークホテル九頭竜において雪結晶の観察を行いました。今年は暖冬で雪が少ないのですが、ネットでスキー場の天気予報を確認し、JR 越美北線で行きました。予報どおり真夜中に降雪がありました。ホテルのロビーの机を借りて、外で集めた雪結晶を顕微鏡観察しました。北海道等では外気温が相当低いので雪を融かすことなくそのまま観察できますが、北陸地方では低温に保った基板の上に雪をとらえ保存する必要があります。そのために、雪に適当な割合で塩を混ぜマイナス20度の低温を作ります。今回は外気温が0度近くと気温が高かったので、雪結晶が上空から落下中に小さな水滴が付着し、結晶が少し汚れています。しかし、外気温がマイナス5度ぐらいの時に当地で降る雪結晶は北海道で観察される雪結晶と同じように素晴らしい美しさを持っています。

アメリカ北部（気温は北海道のように低い）では最近スノーウオッチングが人気で、その関係の本も出版されています（訳本：「雪の結晶」、小さな神秘の世界（河出書房新社）。日本でも趣味の写真撮影の一部として雪の顕微鏡観察が広まると良いと思います。



JR 九頭竜湖駅



パークホテル九頭竜



ホテルのすぐ側に九頭竜スキー場



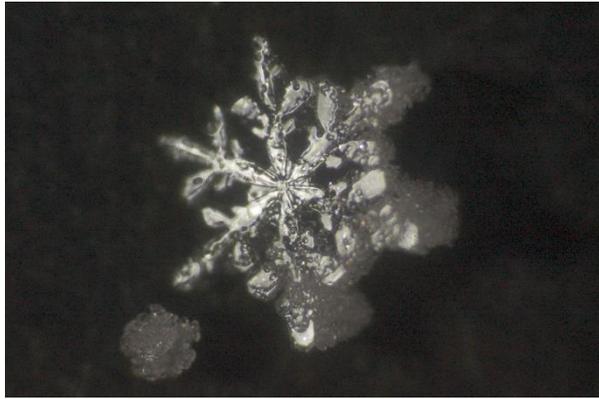
ホテルの裏は森林公園



ロビーの机をお借りして雪の顕微鏡観察



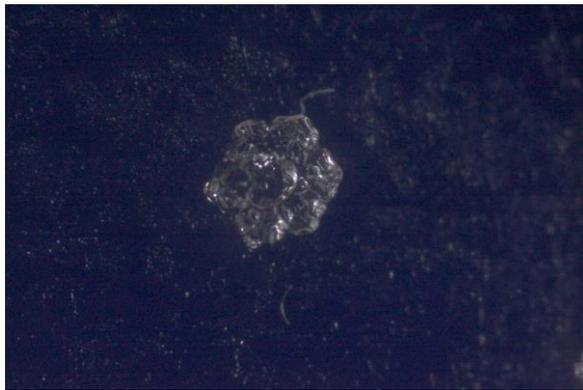
樹枝状結晶や広幅六華の結晶が見られる



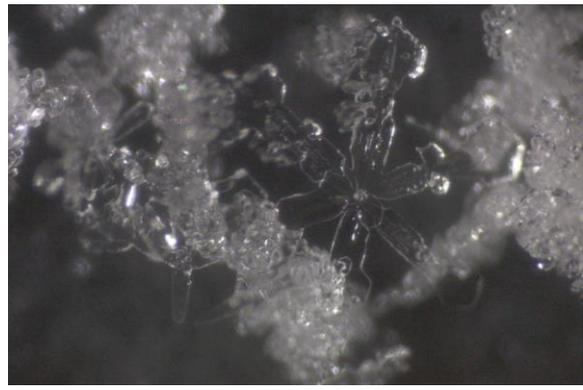
樹枝状の結晶



広幅六華の結晶



正六角形の角板から変化する途中の結晶



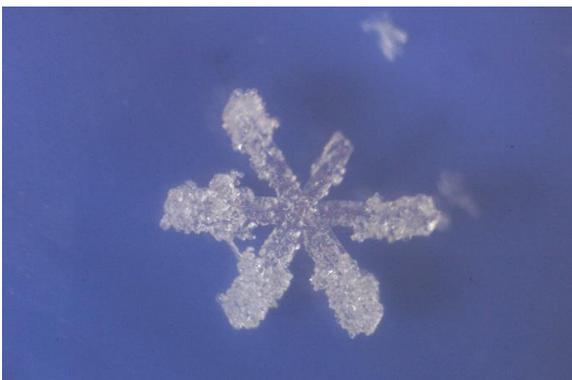
凍った水滴がついた結晶



星状結晶



樹枝状結晶に星状結晶が重なっている



雲粒がついた広幅六華の結晶



あられの中には雪の形を残したものがある